
HAPPY ! ? LIFE

花音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

HAPPY!? LIFE

【Nコード】

N3422Z

【作者名】

花音

【あらすじ】

新婚だけど別居中の大学生夫婦。
入学して半年たったころ、嫁、花音かのんの妊娠が発覚した。
旦那、優ゆうは花音の手伝いをしようと必死！
大学生夫婦の子育て生活記。

私がママですか？！

私の名前は花音^{かのん}。

今は20歳。

18歳のとき大学に進学して、高校時代から付き合っていた彼氏と結婚。

お互い、学を深めるためにも卒業するまでは別居と決めていた。だけど、進学から半年、大学に大分なれたころにあることが起きた。

私は友人とぶらぶら町に遊びに出かけていた。

私も彼もお互い、結婚していることは誰にも言わず、関係があるということもいっていなかった。

そんなときに友人とふざけて、妊娠検査薬を買った。

すぐさま使ってみると、友人は「陰性」当たり前だけどw」と笑っていた。

だけど、私の目にはしゃねにならないものが飛び込んできた。

”陽性”

こんな結果が出るというのは信じられなかった。

もちろん関係を持ったのは旦那だけだ。

しかし、結婚して関係を持った回数は2回だ。

2回で・・・私は正直、彼の繁殖力に驚愕した。

友人にはそのときは笑顔で、「私もw」といっていたが、飲みに行こうという誘いを断って、その日は帰った。

次の日、自分の取っている講座が午後からだったから産婦人科に行った。

「こんにちは・・・初診なんですけど・・・」

ときどきしながら手続きをして、少し待っていたら名前が呼ばれ

た。

苗字が変わってから半年しかたっていないくて、すぐに反応ができなかった。

しかし、ちゃんと診察室までたどり着けた。

さまざまな検査の後、診察室で先生と話しをした。

「18歳、大学生ってことだけど結婚は？」

年があまりはなれていなさそうな女性の先生だった。

「してます。でも、在学中は別居しようって話になってて・・・
眉を吊り上げる先生。

「あら、じゃあ、旦那さんの子供じゃないの？」

「いやいやいや、そうはいってません！」

「旦那の子です。彼としか関係を持ったことはないの。」

「ふーん・・・今ねえ、二ヶ月なのよ、んでね、今寒いじゃない、10月だし。今無理すると危ないからできるだけ安静にしてたほうがいいのよ。あなたご両親と同居？」

「いや、一人暮らしです。ただ、結婚したときに親戚のおじさんが建築デザイナーで、将来二人で住む家って言って一戸建てを建ててくれたんです。そこに今は一人で。」

「一人か・・・旦那さんと家の距離は？」

「隣のアパートです。」

「あら、じゃあ、買い物とか頼んでしばらくは安静にしてたほうがいいわ。」

先生の話では、今少し危ないから学校にも行かないほうがいいとのことだった。

それはいいとして（あんまりよくないけど）、いつ彼に言おう・・・。

そんなこと考えながら、家路に着いた。

するとたまたま駅で帰宅途中の彼と会った。

「あれ？花音、今日は午後から講座じゃなかったっけ？」

彼はきょとんとした顔をしていた。

「優ゆうこそ、午後から実験室行くとか言ってたじゃん。」
すると、子供のような笑顔でこういった。

「なんか、そわそわしちゃってさ。なんかあるって言うんじゃないんだけど落ち着かなくて。虫の知らせってやつかな？今までこんなことなつかたんだけど・・・それで今日は帰ることにしたんだ。」
ふわふわしたこげ茶色の髪の毛に、優しそうな、かわいい笑顔。かれに言わずにはいれなかった。

「実は、優に言わなきゃいけないこと・・・があ・・・」
のどになにかこみ上げてきたと思った瞬間、口から嘔吐物が・・・

気が着くと家の中。

「あれ？」

「ん？ああ、気がついた？大丈夫だった？」

「うん・・・ごめんね。」

彼は心配そうに私の頭をなでた。

「調子悪かったの？」

彼は机の上を片付けながら私に尋ねた。

そのとき、椅子においてあった私のかばんが床に落ちた。

「ごめん。ごめん。ん・・・？産婦人科？」

彼がその紙を持ってきよんとしている。

「どつか悪かったの？」

私は言うにいえなくなっていくた。

彼は紙を持ってている手で、紙を大きく広げた。

「・・・ええ!？」

彼が今まで発したことのないような大きな声を発していた。

「ご・・・ごめんなさい。」

「え？なにが？」

「卒業するまで子供は絶対にほしくないって・・・優、最初に言
ったでしょ？」

優は顔を輝かせて私の手を握った。

「ほしくないわけじゃない。そりゃあ、結婚したんだし、子供が早く見たいと思ってる。花音、安心して！」

そのまま、優は私の親や彼の親に電話をかけ始めた。その日は優が食事の支度をしてくれた。

眠るとき優の手を握りながら、話をした。

「優は子供ができたって実感ある？」

「んー・・・実感っていうか、すごい興奮してる。だって、僕の子供が花音のお腹の中にいて、8ヶ月もしたら会えるんだよ?! あゝ女の子かなゝ男の子かなゝ」

「んふふ。まだ2ヶ月だよ？」

「早くみたいよ!女の子だったら、名前は・・・」

「優花、でしょ？」

「うん。男の子だったら優音・・・ゆうね、とか？」

「あはは、むちゃくちゃゝ」

このときは幸せに笑ってたなゝって思います。

この後のことを考えると、少し笑えて、少し笑えません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3422z/>

HAPPY！？LIFE

2011年12月11日19時50分発行